◎実習報告・幼稚園◎

平成29年度　幼稚園教育実習報告

幼稚園教育実習担当　初等教育科　佐藤慶子・矢津田由利・中山正剛・向井隆久
保　育　科　神田　亮

平成29年度の幼稚園教育実習は、大分県内はもとより、県外の公立幼稚園・私立幼稚園・こども園で取組んできた。１年次の観察実習は１週間、２年次の教育実習は３週間の期間で実施している。２年間にわたる教育実習指導の中で、日誌の記入の仕方や指導案の書き方等と合わせて、子ども理解や援助の仕方といった保育・教育の基礎、実習の目的や意義についても講義し、より具体的な指導・援助に結びつくよう指導を行った。

＊

１．実 習 先　　観察実習・・・・大分県内　　225件　　県外　　８件
　　初等教育科　233名
　　教育実習・・・・大分県内　　177件　　県外　　７名
　　初等教育科　141名　　保育科　43名

２．実習期間　　観察実習：平成29年９月４日～９日
　　教育実習：平成29年10月２日～21日

３．教育実習の意義・目的
　①子どもとかかわりながら、子どもの気持ちや発達の様子を理解する。
　②子どもの生活にかかわりながら、保育者の援助の仕方を身につけていく。
　　具体的には、保育者としてのスキルを総合的に学ぶことである。

４．教育実習園の様子
　〇各園とも将来の保育者として期待を込めて､後輩としての実習生を３週間指導してくださった。
　〇初等教育科・保育科の教員が各園を巡回し、状況を把握するとともに、実習生の励ましと指導を行った。
　〇学生は、子どもとのかかわりを通して誠実に、教職員の助言を受けていた。

５．教育実習を担当して
　〇学生にとって大変貴重な体験である。特に、指導案作成の苦労、園での生活、子どもとの遊び、給食指導、けんかの仲裁などを通して多くのことを学ぶと共に、保育の中で子どもとかかわることに感動している。この教育実習を経て、幼稚園教諭になりたい思いが強くなった学生の報告も受けた。

子どもを信じて待つかかわりの大切さ

初等教育科２年　首藤　早希

私は今回の３週間の実習で遠足や誕生日会、指導案作成や設定保育などたくさんの経験をさせていただき、子どもたちとたくさん関わることができました。子どもたちも一人一人個性があり、苦手なこと得意なことから我儘を言う子もいました。指導案を作成する時には、子どもの様子をよく見てその子どもをよく理解したうえでの声掛け、関わりが大切だと学びました。指導案は自分の分だけでなく他の実習生の指導案も見せて頂きその日の終わりに反省会するという流れで、その中で客観的に見る事でわかる立ち位置や説明の仕方など気付くことがたくさんあり、私自身の学びになりました。

子どもの保育、教育をする上で大切で難しいことは「待つ」ことだと思いました。日常の活動では気になる子どもに、手助けや注意をしがちですが、子どもが本当に理解していないことが多々あり、援助について悩むことがありました。先生方はそういう子どもに対して他の子どもの行動に着目できるように、また、本人になぜしてはいけないのかを考えるのでなく、自分で考えるように問いかけをしていました。子どもたちが自分で考え、自分で生きていく力をつけていけるようなかかわり方が大切だと学びました。また、子ども一人一人の個性を理解したうえで、その子どもに合わせた伝え方をする大切さも感じました。子どもたちも自分で考えて考えて気付いたことや自分の力だけでできたことを何度も嬉しそうに実習生に言ってくれ、とても嬉しく感じました。

実習で先生方のかかわり方を見て、自分なりに大切なことはしっかりと伝えるように心がけると、子どもたちも真剣に話を聞いてくれるのがわかりました。また、子どもの頑張っている姿を周りに広めることで、他の子どもたちも主体的に行動できることも、先生方から学ぶことができました。日々の保育の反省会でも、先生方は、実習生に対しても、良いところを見つけ積極的に褒めてくださり、毎日頑張ろうと思えました。

今回の実習で先生方の子どもたちのかかわりをお手本にして自分の子どもとのかかわり方を試行錯誤しながらも学んでいくことができました。実習で学んだことを生かし将来は園の先生方のように、子どもを信じ積極的に認めていけるような保育者になりたいです。

「楽しむ」ことから始まる保育

初等教育科２年　吉良　伸子

今回の幼稚園教育実習は、最後にして最大の実習であり、今までの授業や実習で学んだことを生かし力にすることのできる大きなチャンスだと考えていました。１年次の観察実習では、専門的知識もまだ浅く、子どもと触れ合う経験も乏しい状態で迎えたため、とても緊張や不安を抱いて実習を迎えました。それから数々の実習を経て、今度は観察実習と同じ園で、もっと実習を有意義に送るための力をつけて臨めることにわくわくする気持ちと、前回とは変わった姿を見せることができるのだろうか、という不安を抱えて臨みました。

実習が始まると、観察実習の際に当時年少だった子ども達が私のことを覚えていてくれて、「吉良先生だ！」と部屋の前まで会いに来てくれました。年中クラスの実習では昨年一緒に過ごしたクラスの子どももいて、子どもの大きく成長した姿も見ることができました。子ども達はこんなにも自分のことを見ていてくれていて、そんな子ども達の笑顔や成長に寄り添う

ことができるという喜びを実感する瞬間も沢山ありました。また、登園・降園時に保護者の方々に挨拶した際に、「うちの子が毎日家で吉良先生、吉良先生って話してくれますよ。」等と声を掛けてくださる方もいらっしゃいました。まだ実習生の身であり、自分が子ども達に何かを残すなどイメージもつかない状況でしたが、こうした出来事が少しずつ自信と先生という仕事への憧れにつながっていきました。

もちろん楽しかったことばかりでなく、辛かったことも沢山ありました。私は今回の教育実習で、部分実習と全日実習をどちらもさせていただき、どちらの指導案も実習までに用意していたものではなく、実習中に担任の先生と相談しながら一から作っていきました。その為、実習中は家に帰ると毎日、日誌と指導案の作成、全日実習の中で弾くことになる曲のピアノ練習８曲をこなしていきました。指導案作成では、年齢や子ども達の様子に合わせた内容をなかなか考えることができず、沢山考えた案のなかからようやく担任の先生にOKをもらえるものが出た、という様でした。ピアノの練習も、決して苦手ではなくても１度に８曲は難しく、全日実習の日が近づいてもなかなか上達しない焦りも感じていました。しかし、こうした辛いことも子ども達の姿を思い浮かべると力が湧き、子ども達の笑顔の為に自分ができることは全部やろう、と思うことができました。

実際に現場で働くと、楽しいことばかりではなく辛いことの方が多いかもしれません。しかし、実習を通して感じたのは、辛い・苦しい・自信がないと思う原因を一つずつ潰していくように、自分のできる最大の努力をもって臨めば、どんな時でも胸を張ることができるし、物事を楽しむ心のゆとりも生まれるということでした。子ども達は思っている以上に自分のことを見ているので、そんな子ども達を笑顔にし、成長に導くためにはまず自分が心から笑顔で接し、自分自身が成長していくことが大切だと感じました。この実習で学んだことを胸に、これからも励んでいきたいと思います。

一人一人の子どもに合った関わり方の大切さ

初等教育科２年　後藤　楓佳

私は、幼稚園教育実習を終え、より保育者になりたいと思いが強くなりました。子どもたちが、毎日の生活の中で、様々なことを感じ、気づき、挑戦する姿を見て、その一つ一つの瞬間に出逢う喜びを感じたからです。私の実習園は比較的、園児数が少なく、子どもたち一人一人と関わりやすい環境でした。一年次の実習では、１週間の中で子どもと共に生活していく面白さをたくさん感じることができました。特に運動会の時は、練習に一生懸命な姿、友だちと心から楽しんで遊ぶ姿、出来ない事や苦手な事にも様々な葛藤をしながら向き合う姿に、私自身も力をもらい、有意義な実習となりました。そして、二年次の実習では、一年次に比べ、子どもの人数も多く、指導案の作成、実践を経験し、より子ども一人一人の理解や日々の記録、挨拶や掃除といった基本の大切さを学びました。子どもたちと関わる中で、この子には、こんな得意なことや苦手なことがあるだけでなく、そのことに対してどのように向き合い、取り組もうとしているのかを知ることができ、一年次にはわからなかった子どもの理解ができました。また、先生方が、一人一人の子どもに合った関わり方をすることで、子どもが、安心して自分を発揮したり、保護者が安心して預けたりすることができていると強く感じました。

子どもたちと関わった幼稚園実習３週間で、子どもの可愛さ、面白さ、保育者として責任と

大変さを学びました。卒業後は「実習生」ではなく「先生」として、願いをもって一人一人の子どもに向き合い、子どもの育ちを支えていきたいと思います。これからは、「子どものことが大好き」という気持ちを忘れず、子どもたちと共にある保育者でありたいです。

日々の活動を通して見える子どもの成長と保育者の関わり

初等教育科２年　山本　あかり

私が幼稚園実習を終えて特に学ぶことができたと感じていることは、保育者の関わりと子どもの成長の関連性についてです。

二年次での実習では、運動会を経験させていただきました。運動会練習においての年長児の鼓隊練習では、最初のうちはなかなか音が揃わずに笑顔で取り組んでいる子どもが少ないように感じました。そこで、保育者の方々は子ども一人一人に「太鼓はこうやって叩くといいよ。」と声掛けしたり、「すごく上手だったよ。」と褒めたりしていました。さらに、子どもの一生懸命な姿を笑顔で見守ったり、手拍子で楽しそうにリズムをとったりして明るく温かい雰囲気を作っていました。また、リズムをとりやすいように年長児のクラス名を使って「すみれと・れんげは・なかよし」という言葉を皆で言い、全体で合わせられるように工夫していました。これらの支援から、子どもたちは笑顔で楽しく鼓隊に取り組むことができ、自分の楽器パートに責任を持って積極的に練習をしていました。この活動・支援を見て私は全体指導をする際に大切なことについて考えました。それは、保育者が活動を楽しむようにすること、子ども一人一人をしっかり観察し声掛けすること、明るい雰囲気作りをすることです。初めてする活動では特にこれらを意識し、子どもたちが不安にならないような声掛けをしていく必要があると考えました。そして、子どもたちが活動を楽しいと思えるような工夫を考えて実践することが、子どもの興味・関心を高めることに繋がるのだと思いました。

普段の活動で、私が最も子どもの成長を感じたことは、毎日必ず紙飛行機を折る子どもの姿でした。最初は「折れない。」と嘆いて紙飛行機を作ることを諦めていましたが、毎日寄り添って「一緒に折ってみよう。」や「かっこよく折れたね。」など声掛けをしていくとその子は段々と難しい紙飛行機にも挑戦するようになりました。私が実習最終日には一番難しい折り方の紙飛行機を一人で折ることができ、一緒に喜びました。そのことが強く心に残っています。小さなことでも保育者の関わりによって子どもの成長に繋がること、成長をともに喜べる事の嬉しさを実感することができました。

私はこれらの経験から、子ども一人一人に合った支援、援助をして成長を促せる保育士になりたいと感じることができました。実習で学んだ保育者の関わりの大切さを忘れずにこれからの保育に生かしていきたいです。

幼稚園実習から学んだ保育者の言葉がけの重要性

初等教育科２年　柴田　梨帆

わたしは、三週間の幼稚園実習を通して多くのことを学び、保育者としてスキルアップすることができました。二年次は、一年次よりも子どもや保育者の姿を、詳しく見るように意識することで、多くの疑問や気づきを発見することができ、充実した幼稚園実習となりました。

そのなかでも特に、保育者の言葉がけの重要

性を実感しました。保育者の言葉がけで子どもたちの行動は大きく変わることを知りました。例えば、片付けの場面において実習先の先生方は、子ども達に「片付けて」と命令の形の言葉がけをするのではなく、「誰が一番片付けるのが早いかな？」と子どもたちの競争心を促す言葉がけや、「〇〇君、お片付け上手だね」と褒める言葉がけをして、子どもたちの片付けの意慾を高めていました。「片付けて」という言葉がけでは動こうとしなかった子どもたちが、言葉がけを工夫することで、意欲的に行動する実際の子どもたちの姿を見て、保育者の言葉がけは子どもの自発的行動につながるとても重要なことであると実感しました。他の様々な場面においても、保育者として子どもたちの意欲が高まる言葉がけを常に意識することが大切だと思いました。

また、保育者の言葉がけは意欲を高めるだけでなく、子ども達の表現力や想像力などの能力の発達を促すことにもつながることがわかりました。例えば、砂場で子どもがカレーライスを作る見立て遊びをしているとします。わたしは子どもたちが作ってくれたカレーライスに対して、「おいしいね」というワンパターンな言葉がけをすることしかできていませんでした。しかし、先生方は、「辛いね」「熱いね」「いい匂いだね」「とろとろしてるね」など様々な表現で子どもたちに伝えていました。保育者がワンパターンな言葉がけでなく、五感を使って様々な言葉がけで表現をすることで、子どもたちの表現力や想像力を広げることができると思い、私も意識するようにしました。

このように、保育者の言葉がけは子どもの成長に大きく関わります。私は今後、保育者として、この幼稚園実習で学んだ子ども達の成長につながる言葉がけを意識し、一人一人の良いところ伸ばすことができる保育者になりたいです。

こだわりをもつこと

初等教育科２年　藤川　美鈴

私は４回の実習を母園で行いました。実習を重ねるたびに、自分自身成長出来るように、努力しました。実習初日に園の先生から、「何でもいいから、これは、誰にも負けない。掃除でもピアノでも絵本でも、何でも良いからこれ！というものを持つことが大切」と言われました。私は実習中、同じ実習生はライバルで誰にも負けたくないという気持ちでいました。そこで、私は一つ心に決めたことがあります。それは毎朝誰よりも早く実習に行き、玄関掃除をする中で、保護者の方と挨拶を交わしたり、登園時の子どもの様子など、他の実習生が見られていない登園時の子どもの様子、保護者と保育者の関わり方など学びが多くありました。私は努力は必ず誰かが見てくれていると思い、毎日頑張りました。実習中の最終日前日に遠足がありました。遠足で子どもたちと関わったり、先生方と話す機会もありました。私が幼稚園児だった頃からの先生から「本当に、毎日毎日玄関の掃除をしてくれてありがとう。毎日頑張ってくれて、本当に凄いと思うわ」と言って頂き、頑張って良かったと思いました。また、最終日に反省会があり、実習中の態度や、日誌について指導して頂きました。５歳児の先生から「毎日ありがとうございました。いつも、美鈴先生が誰よりも早く来て掃除をしてくれてとても助かりました。」と言って頂きました。また「社会人１年目は、積極的に気づいてやるということを頭に入れておくと良いですよ」と言っていて、私は毎日掃除をしていたことを褒めて頂き、こだわりを持って頑張って良かったと思えました。もう一つこだわりを持ったのは、毎日絵本読みをすることです。自分の本をもっていったり、園の絵本や紙芝居を借りて、たくさん絵本読みを

しました。毎日絵本を読む中で、「美鈴先生、これ読んで！」と言ってくれる子どもがいたり、また、同じ実習生から「読むの、上手いね」など言ってくれたりして、少し自分の自信になりました。

私は、短大２年間の計４回の実習で、辛かったこともあったけど、実習園の先生から言われた「何か一つ負けないこと、これ！というようなこだわりを持って頑張る」ということを頭に入れて実習できて良かったです。私はこれから社会人となり、保育士として働きます。何事も学び、何事も経験です。努力はきっと無駄にならないと信じ、これからも日々努力していきます。